

ナルニア国物語

魔術師のおい

18

C・S・ルイス

土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

第18話 ナルニア創世(後編)



生きてる

ひびひび

ひび

——て言うか

明かりが
ともってるよ

この
わたしでさえ

かような魔法が
あろうとは
夢にも思わなかった

ここは
何もかもが

街灯さえも
芽を出して
成長する世界
なのだな

すばらしい

これは
すばらしいぞ

それにしても
街灯は
どんな種から
育つんだろう？

わからないの

伯父さん？



ここは

さっき鉄の棒が
落ちたところだよ

——魔女が
ロンドンの街灯から
ひきちぎった鉄の棒が



そういう
ことが！



それが
土にささって

小さな街灯になって
育ってきたんだよ

……そうかなら
成長してさあ



いや

仰天

仰天



ほう

ほう！

わたしの魔術を
笑った連中め

あの
馬鹿な妹め

わたしのことを
頭がどうか
しておるなどと
言いおって

これを見たら
なんと言うか？

わたしは

ありと
あらゆるものが
生命力にあふれて
育っていく世界を
発見したのだ

コロンブスが
なんだ

コロンブスくらいで
騒ぎおって

アメリカなんぞ

これにくらべたら
何ほどの
ものでもないわ

この国で
商売する気になれば

可能性は無限だ

くず鉄を
運んできて
土に埋めれば

新品の機関車だの
軍艦だの
何でも
作れるわけだ

元手は
ただ同然で

育ったものを
イギリスへ持っていけば
目いっぱい値がつく

わたしは
大金持ちに
なれるぞ

…それに

この気候！

もうすでに何歳も
若返ったような
気がする

ここで保養所を
経営するのも
よからう

りっぱな
療養施設を
建てれば

年間二千万は
下るまい

もちろん

何人かの人間には
秘密を打ち明けねば
ならんが…

とにかく
あの獣を
撃ち殺すことが
先決だな

おじさまって
魔女と
そっくりですね

殺すことしか
考えないんだから

それでもって
わたし自身に
ついては

ここへ
移住してきたら
寿命が何年
延びることか

六〇を
越した者にとっては
きわめて重大な話だ

この国で暮らせば
一日たりとも
歳を取らずに
すむかもしれん！

いやはや
驚いた

若さの国
とはな！

……え！？

若さの国!?

伯父さん

ほんとうに
ここが
若さの国だと
思うんですか?

アンドリュー
伯父さん

——メイベルは
いまとなつては

若さの国から
摘んできた果実でも
食べさせなくては

治らないんじや
ないかと——

この国には
母さんの病気を
治せるようなもの
があると思いますか?



何を寝ぼけて
おるのだ



ここは
薬屋じゃ
ないんだぞ



さっきの
話だが――



…伯父さんは
母さんのことなんか
どうだっていいんだね

心配して
くれてるかと
思ってたのに

だって

ぼくの
母さんだけど

伯父さんの
妹でもある
わけでしょ？

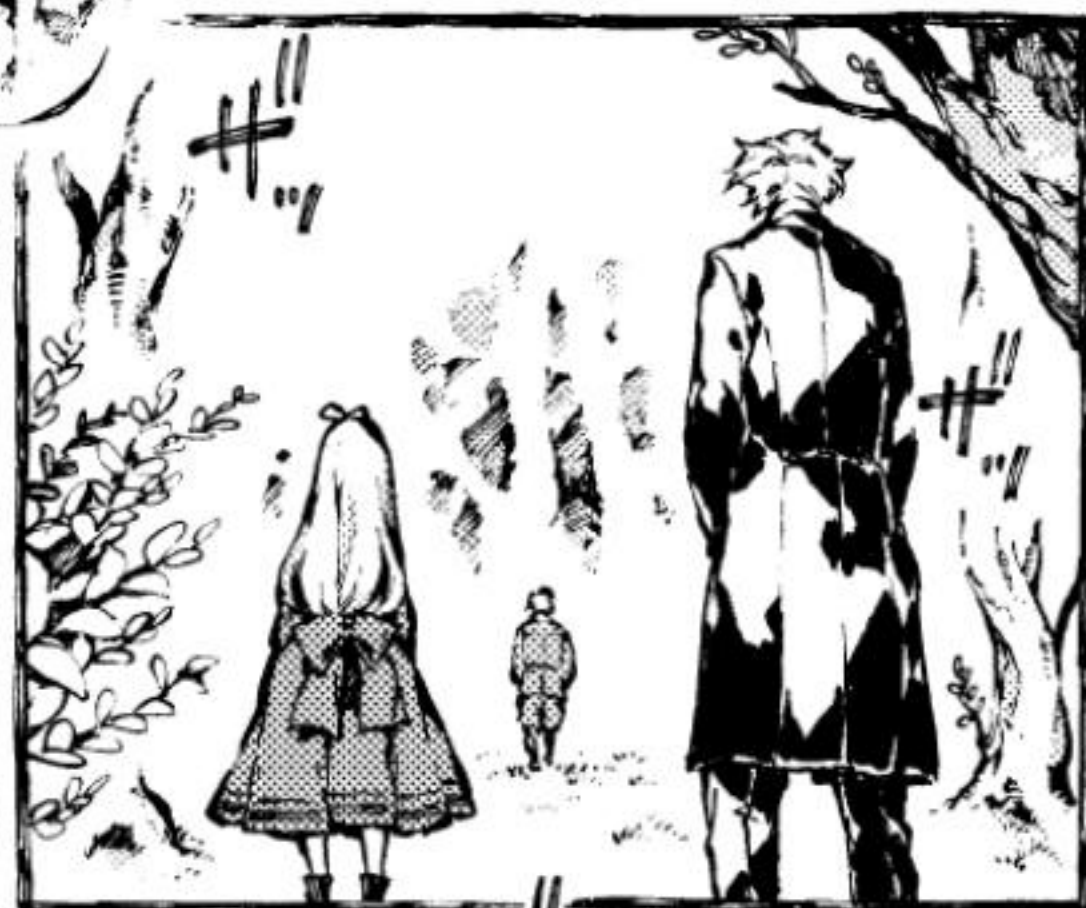
……でも

もういいや

助けて
くれるか
どうか

ぼく

ライオンに
直接
聞いてくる







…歌がふたたび
変化した？

…なんだか



すっごく
ワクワクする…!!

とっても
動きたい気分だ!



いやあ

なかなか
元気のいい
お嬢さんだ



あの気性は
残念だが

それでも
めっぽういい女に
変わりはない



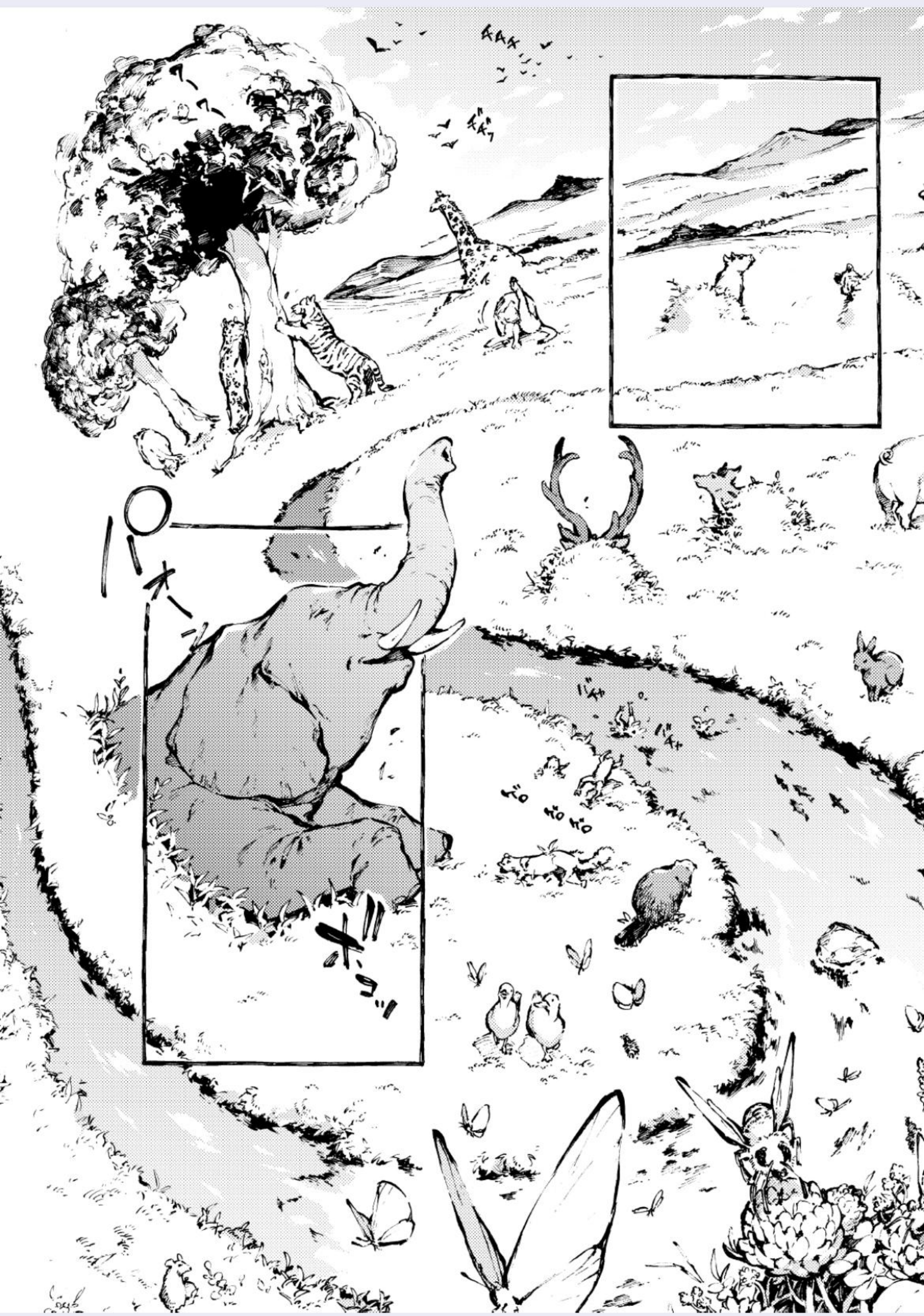


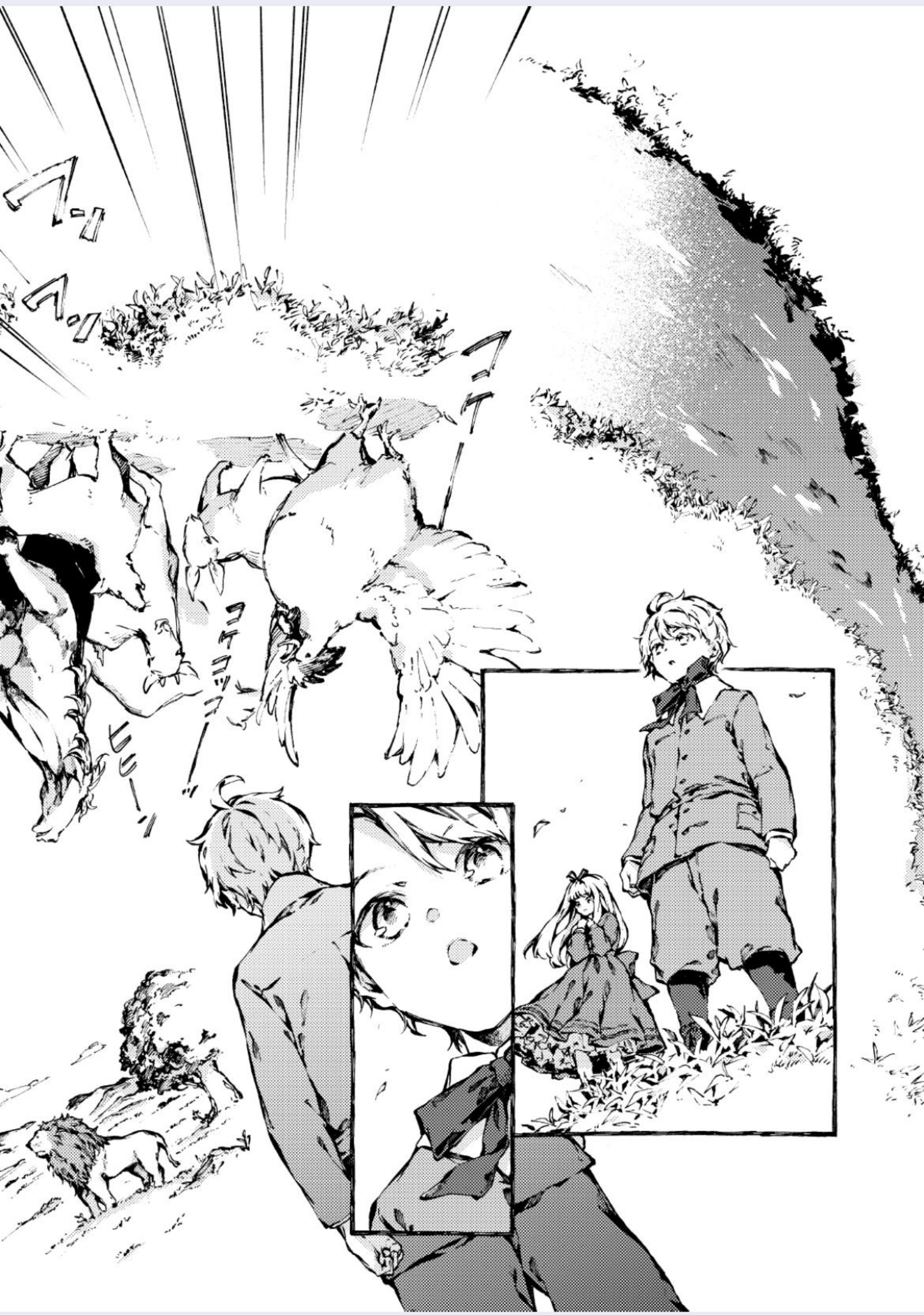






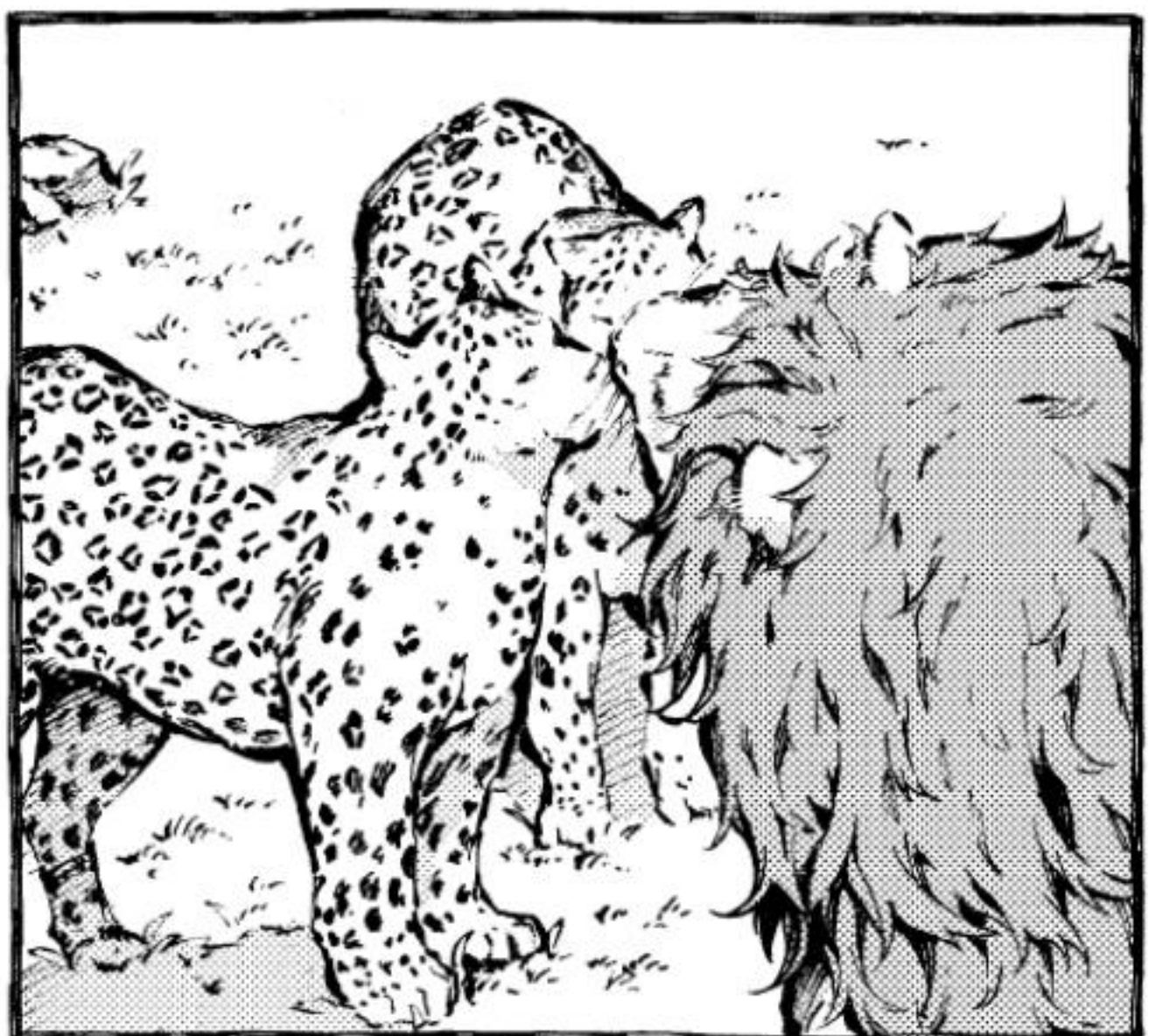


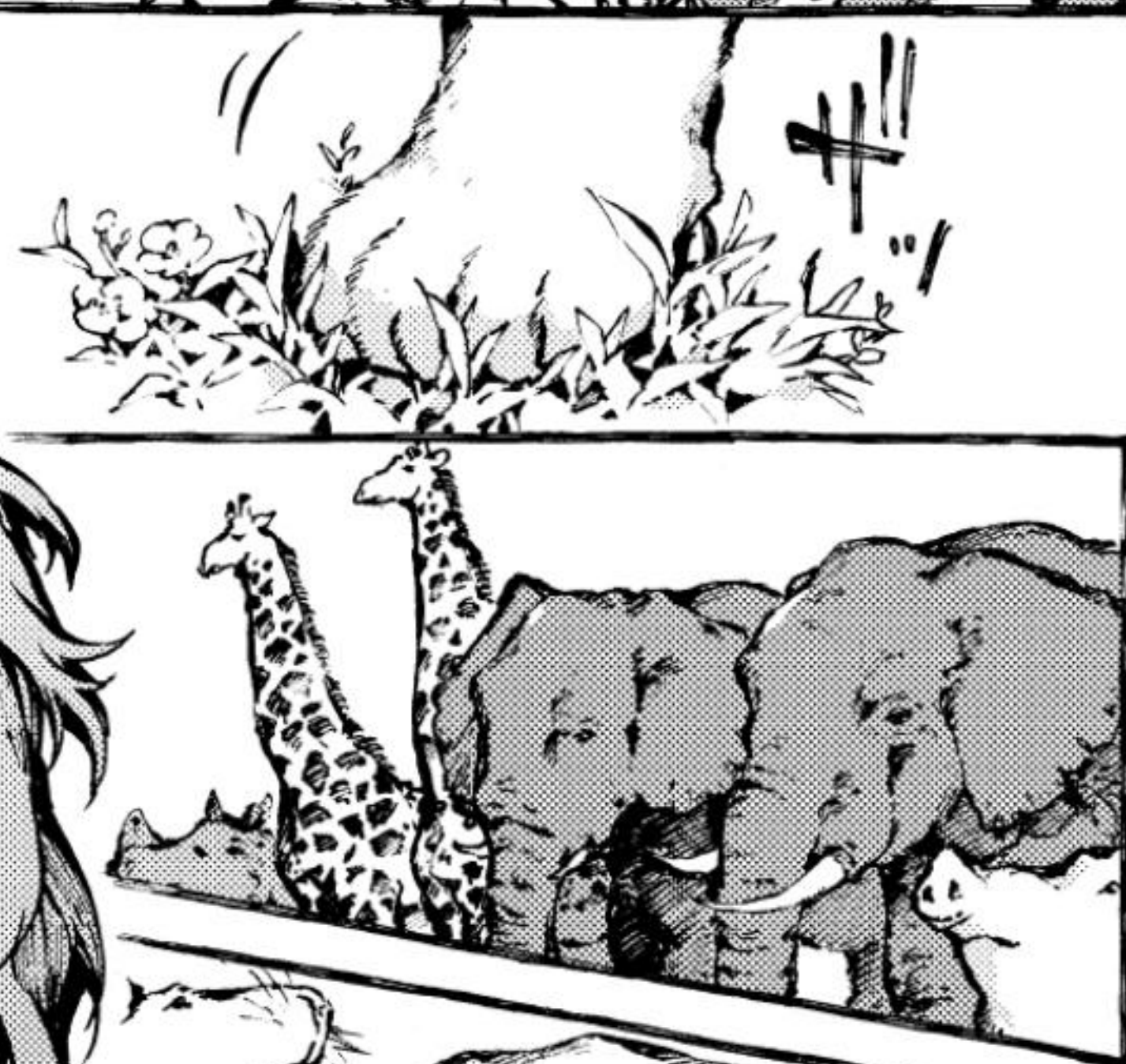


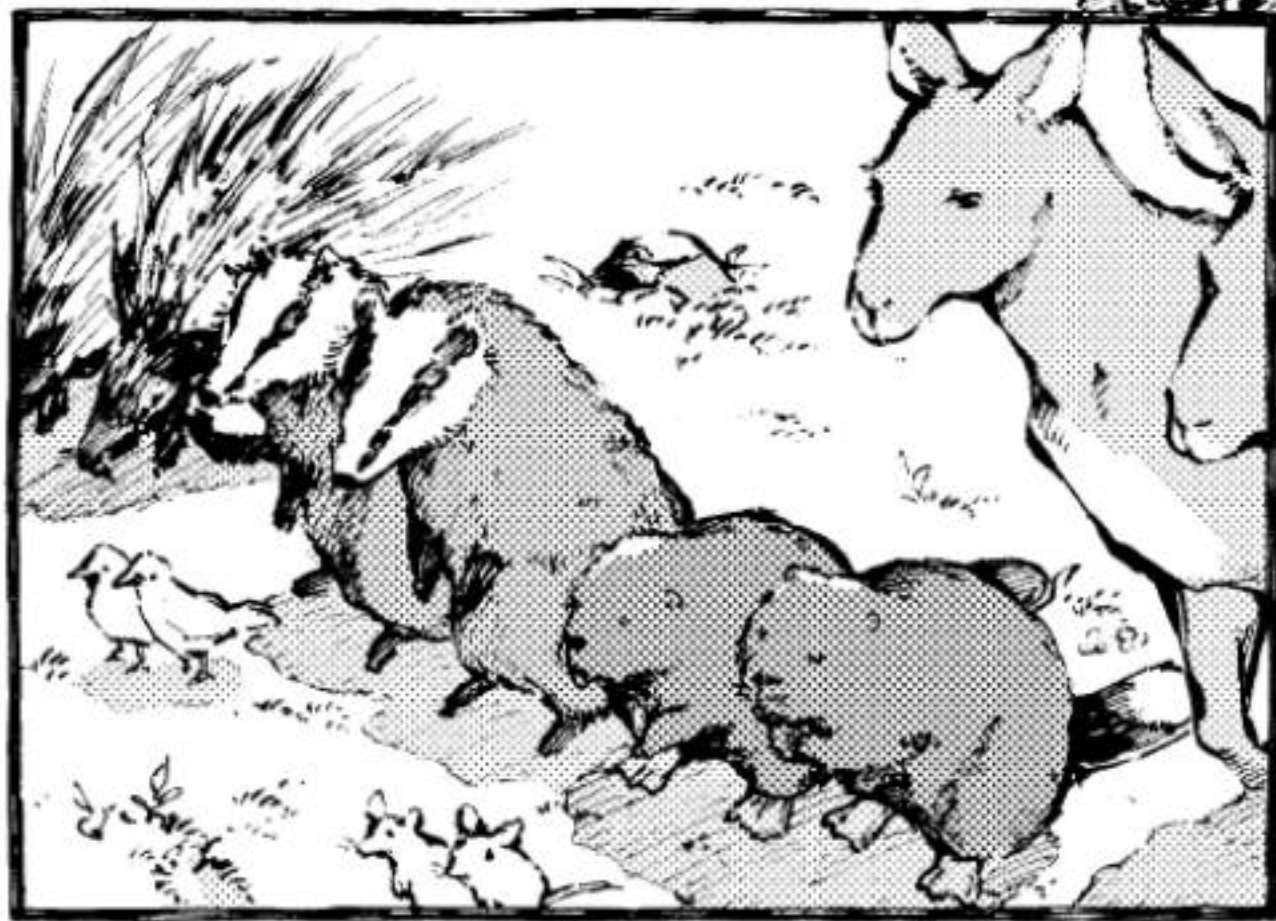
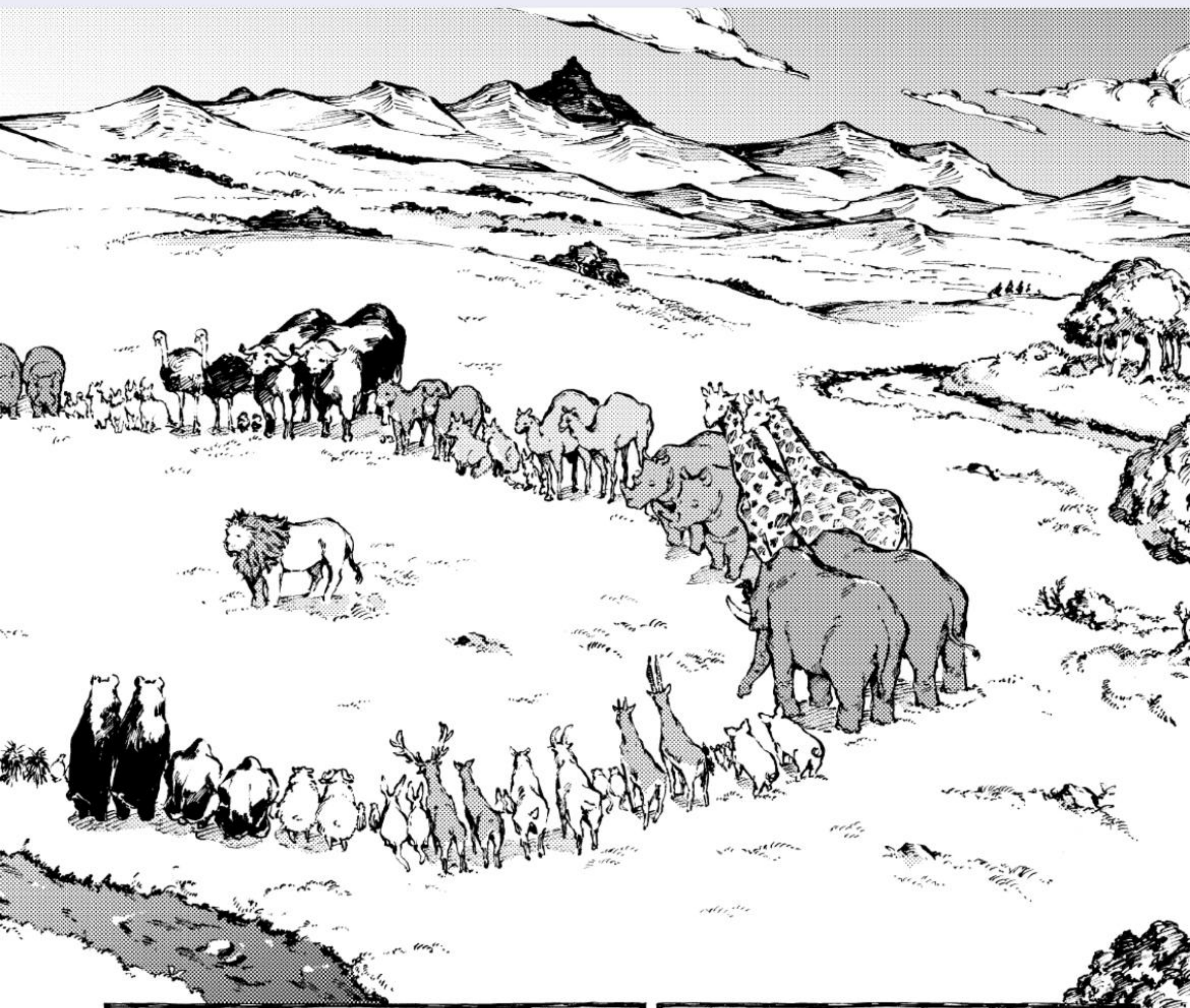


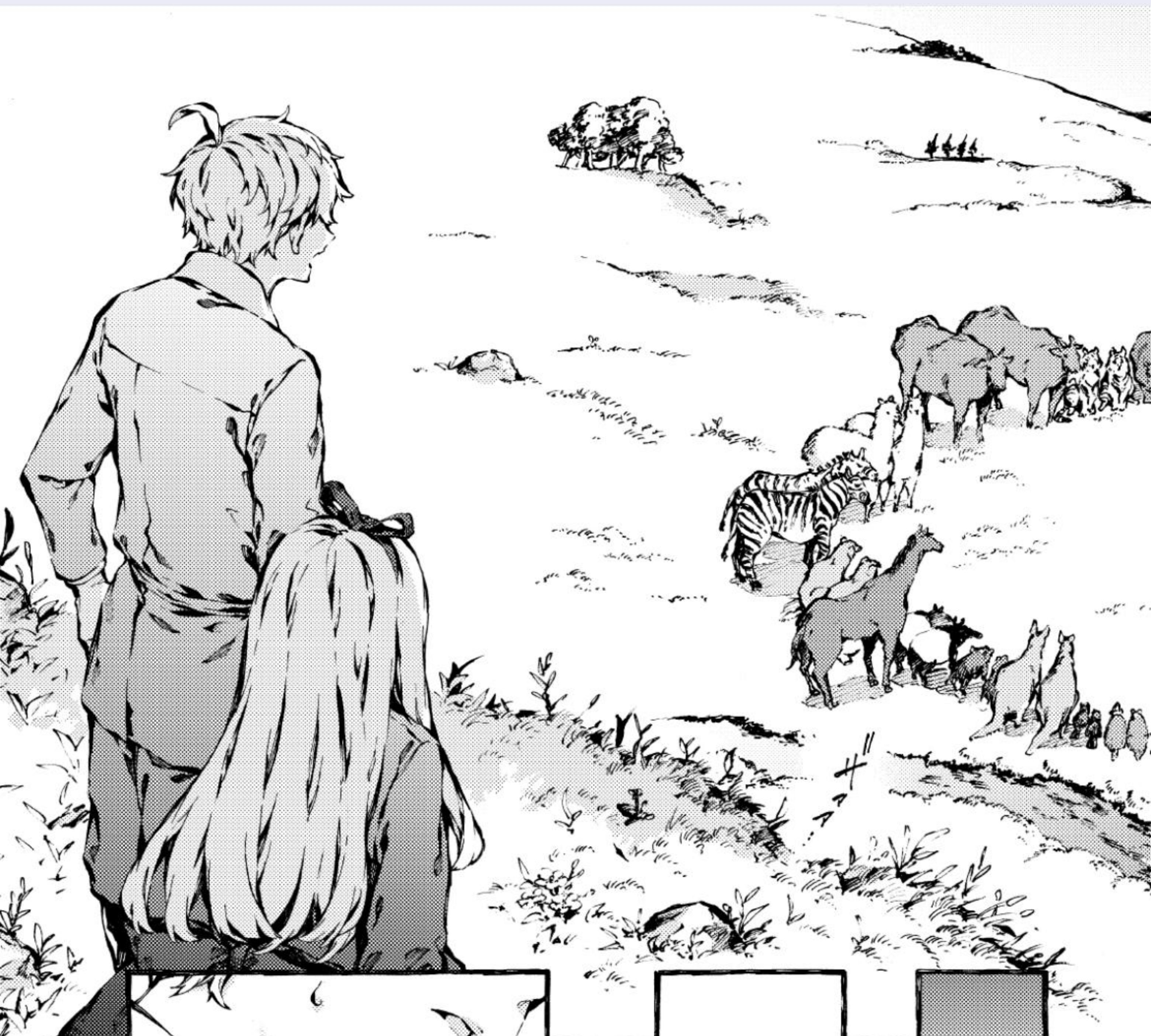


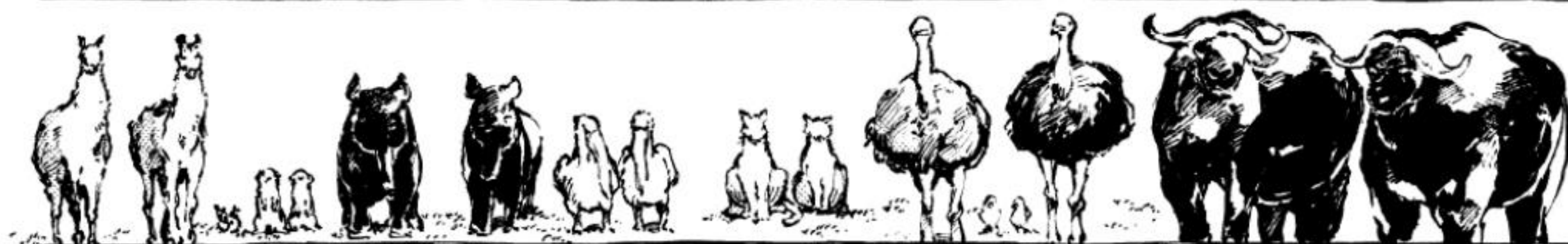
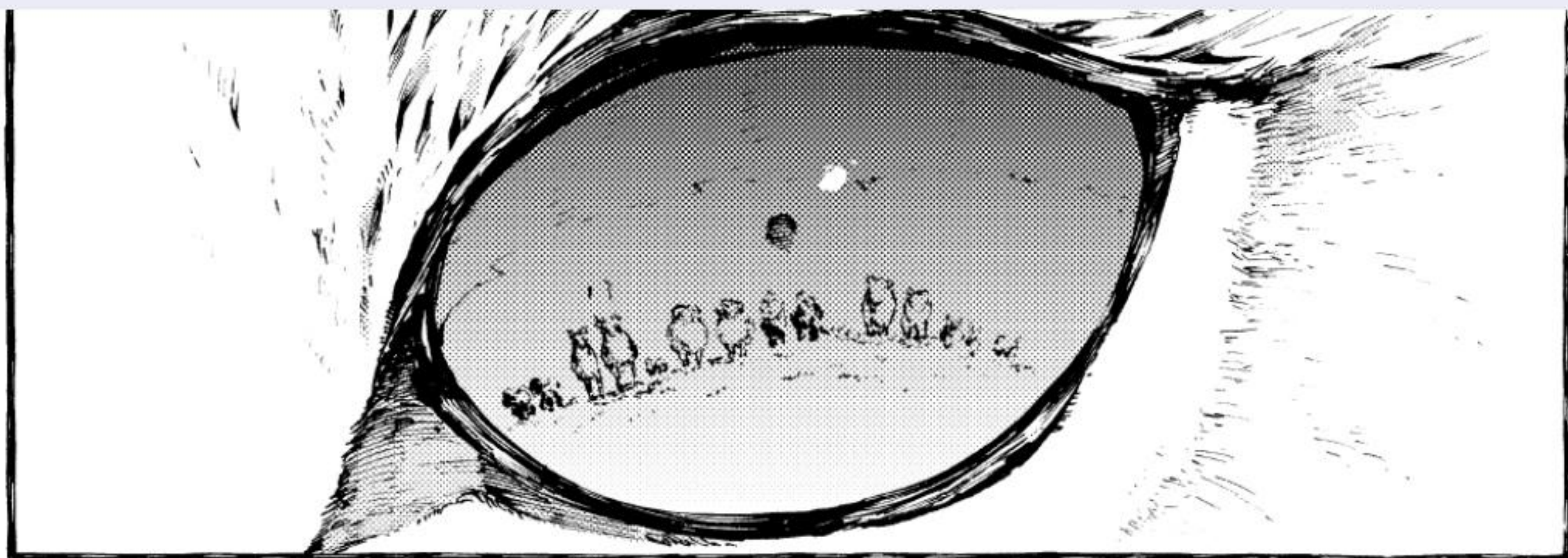


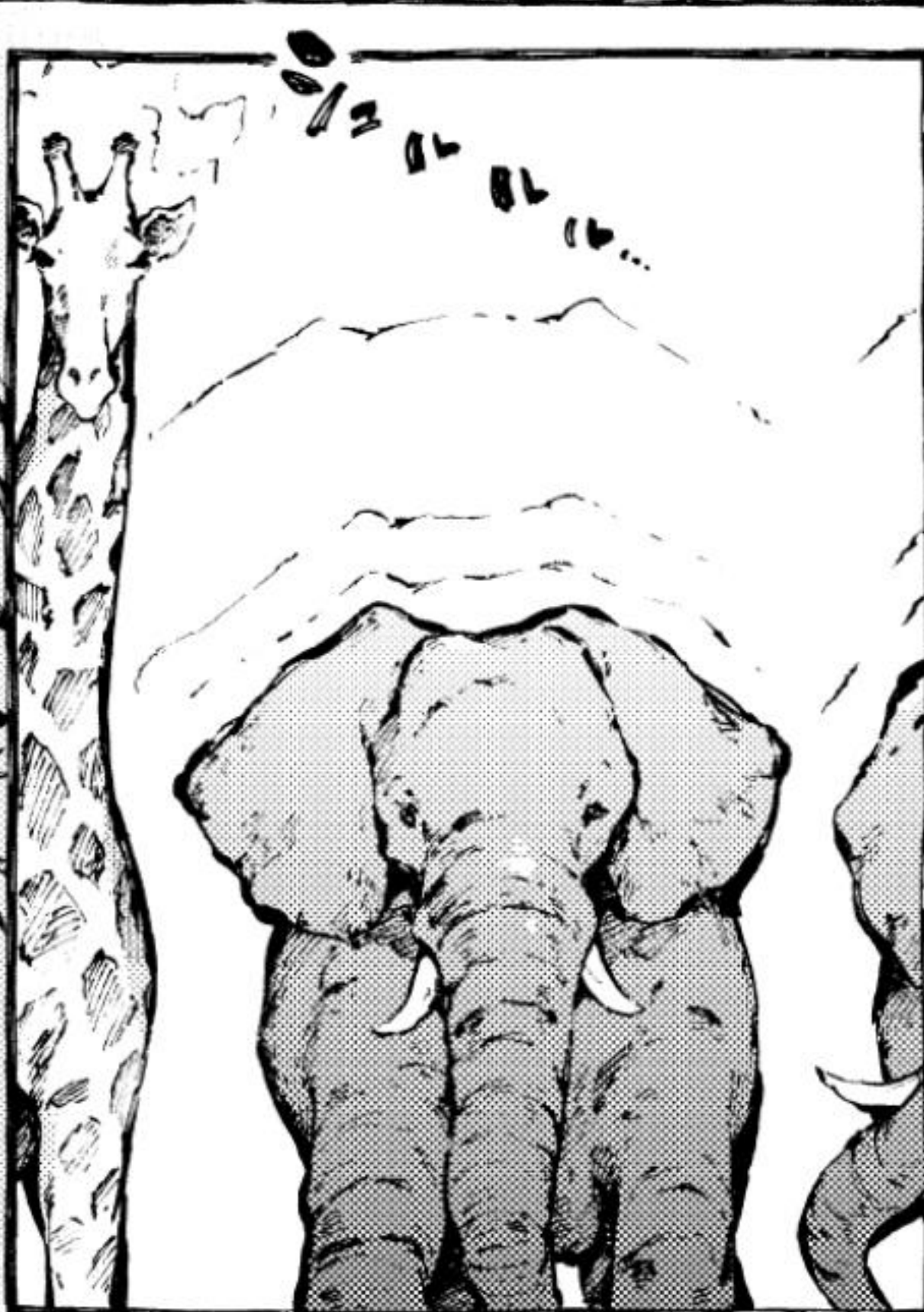
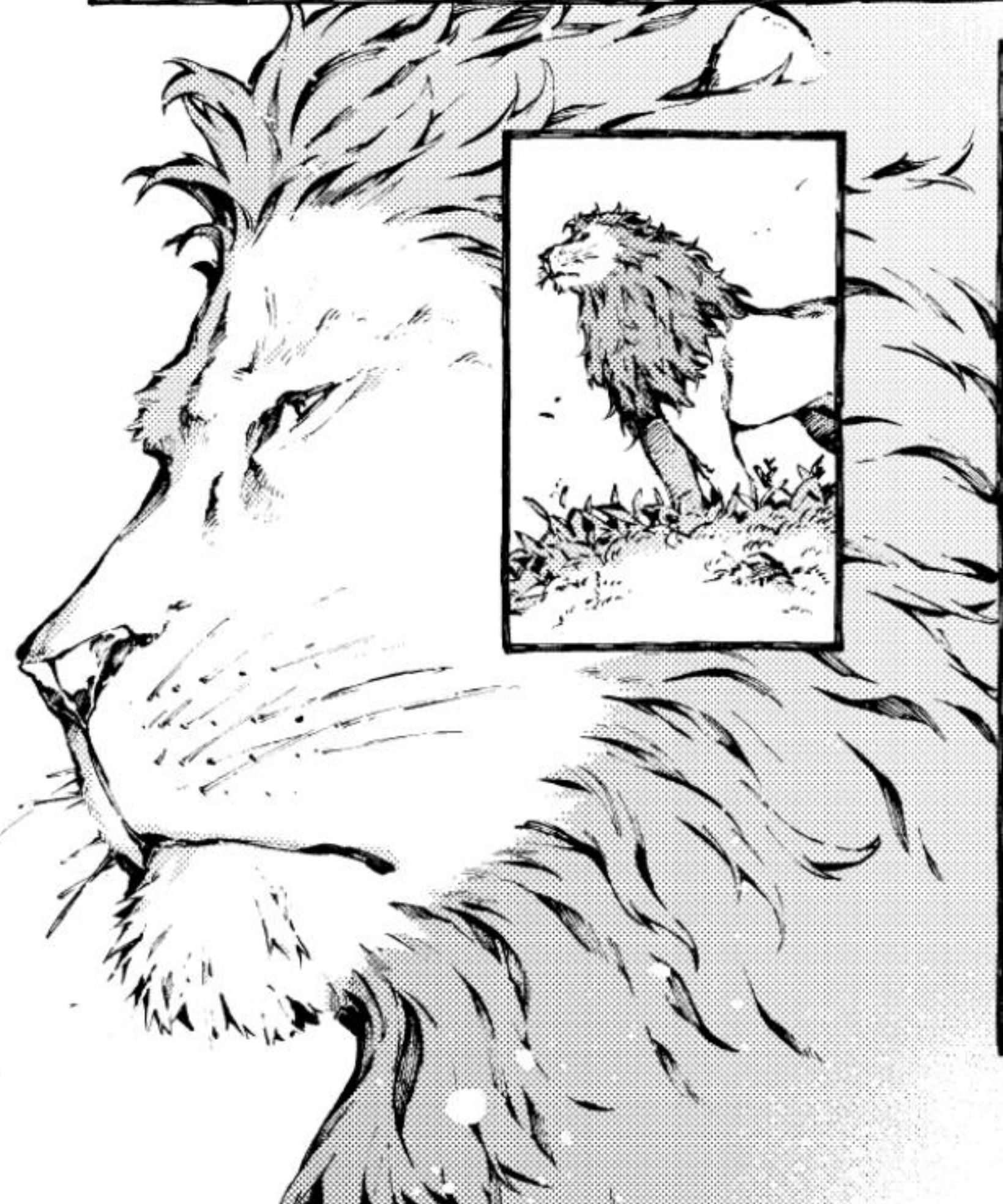
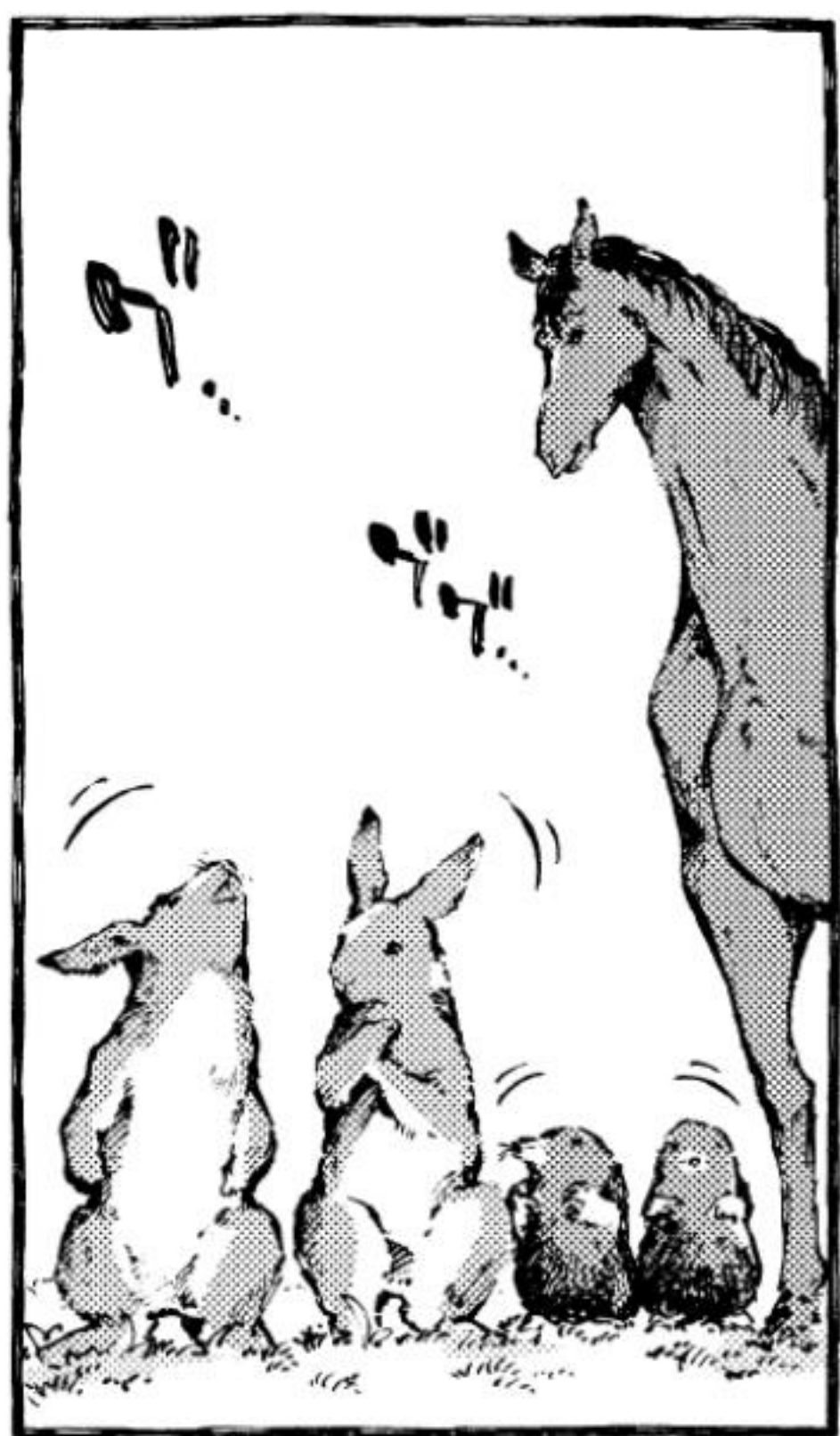


















ナルニア

ナルニア

ナルニアよ



